

これからのことを…4の(20)

●長明さんを今に



牛と一緒に生きる

鼻輪と杭が10cm程離れて繋がれた牛は食べ物がなく、立ったままガリガリに痩せていく。何もなければ普通に倒れ横になることができるのですが、杭とつながっているから鼻の奥が伸びてとても苦しんで亡くなっていった。11年前の3月11日東日本大震災の原発事故で福島第一原発から半径20キロ圏内に12日避難指示が出て、人間はすぐに避難。「警戒区域」にいる家畜に対して5月には殺処分の指示、6月には実施へ。そんな牛たちの地獄のような惨状を目にし、

牛たちを「無視しているストレスや自分に対する嫌悪感」でいっぱいになり、生き残った牛たちを探そうと家畜を気にしている農家さんと動いた方がおられたんです。昼間その区域に入る許可が必要で東京から2,3週に1回通い、その内福島で夜コンビニの仕事をしながら。牛には気持ちがよく通じるといいますが、この地が揺れて誰もいなくなり、牛は捨てられたと思い、そのうち殺しに来たので、より人間不信になって逃げまわった。一方で家族同様の家畜と離れた農家さんは本当に苦しみました。最初は牛が信頼してくれるように心を注ぎ時間をかけて動いたそうです。草に含まれる放射線量は国が定める基準量より下がっていて、牛は荒れ放題の農地のセイタカアワダチソウや木を食べ、牛糞で土に栄養を与え、土に含まれる線量を減らし農地の保全に動いてくれているそうです。今は共に動く仲間と、数々の障壁を乗り越えて、この牛た

八幡まるごと館だより

2022年4月8日/148号

<発行>八幡まるごと館/八幡市男山松里12-20
(TEL&FAX) 075-983-3664(9時~17時)
(E-MAIL) yawata@marugotokan.net
ホームページは <http://marugotokan.net/>
又は、八幡まるごと館で検索して下さい



八幡まるごと館は街行く人のだれもが自由に立ち寄れる“地域サロン”です。休館日は毎週火曜日全日と土・日午後です。

ちが生きてゆく牧場の運営を。
(いとうせいこうさんの「福島モノログ」を参考に)



(写真 2021年除染作業を見つめる大熊中学校庭の桜 大熊町写真館より)

この11年間を思います

普通に当たり前前に生活していた何十万人という人たちがこの原発事故によって投げ出されたのです。5,6年前、近くの保養キャンプの取り組みに参加させていただいた時、保護者の方が「ここで話すことは地元で話せない」と言われていました。目に見えない放射能のために避難か地元に残るかという辺りだけでも被害者同士に分断ができ、中々つながらないと。家族離れ離れの二重生活、離婚、中にはいのちを絶った方も。皆さんが悲しみや悔しさを抱えて、次から次へと襲ってくる問題を前にお一人お一人苦闘され生きて来られたんです。

そんな中でつながいを

「二度と誰にもこんな思いをさせない」、「生きる尊厳を奪われない」との思

いかから、2012年3月に福島原発告訴団が、更に2015年5月には「ひだんれん」(福島原発事故被害者団体連絡会)という全国組織が結成され、多くの人々がつながり、共に行動を起こします。それまで口を閉ざしてきた被害者の方々がさまざまな分断を超越手を取り、傷つけられた尊厳を取り戻すために闘うことを宣言したのです。これは集まった方々が、それぞれの被害者の異なる体験を共有する営みでもあったのではないのでしょうか。

長明さんが現在いたら

『予、ものの心を知れりしより、~世の不思議を見る事、ややたびたびになりぬ。』として、長明さんは五大災厄(大火、竜巻、遷都、飢饉、地震)で苦しむ民の姿を書きました。長明さんが現在にいたら、その中で苦しむ人々の姿をきくと書きたいと思います。まず原発そのものが人の手で制御できるものなのかどうか、今回のような取返しのつかない事態を引き起こしたんですから。収拾の目途もたたない。今でもそのために毎日4000人の方々が被曝労働に就いています。そして、自然や動物をとんでもない所に追いやったのも人間です。

長明さんは言うでしょう。事故はまだ終わってないのに、何故報道さ

れないのかと。今は3月11日前後のみ行事のように書かれているだけですから。

先を示していただいている

原発事故後のこれらの状況はこれから先、どこにでも起こりうることなのではないかと思えます。分断はコロナ禍でも、時間がかかるけれど、違いを違いとして認め合うことがこの困難を乗り越える決め手に。バラバラになるのはいつも為政者の望むところです。

牛と共に生きる方、有機農業されて

いる方、避難している方、ずっと警戒区域に残り動物たちと生きてきた方、……。

そういう人たちが苦悶されたことの中から新しい道が少しずつ見えてくるのでは。私はまだまだ知らないことが多いですが、そこから学んでいけたらと思っています。

戦争も実は分断が出发点です。大切に心を紡いできた人間関係をもバラバラにしてしまいます。今、子どもたちが大切にされないと来るべき世界が描けなくなります。

<3月にこんなことをしました>

理科の実験



4日 参加者は少なかったですが、木下章司さんと宮地さんが来て下さって、電気で作ったパンを焼きました。牛乳パックを用意します。



ホットケーキミックス、牛乳、卵を入れてよく混ぜて牛乳パックに。上の



八幡の歴史



10日 出口修さんは石清水八幡宮の摂社と末社について話されました。境内には小さい社殿

し込むと、どうなるか？牛乳パックが熱くなって、その内パンが出来上がります。原料に食塩が含まれていて、プラスとマイナスのイオンが働いて電気を通すからだそうです。でも水分がなくなると勝手に止まります。2回目はチョコチップを入れ美味しかったです。この仕組みで敗戦直後のパン焼き機が市販されていたそうです。クリップをつけてから電源へと順番を間違えないように。楽しかったです。ありがとうございました。

がたくさんありますが、摂社とは八幡宮の主祭神と関係の深い神様で、末社とは余り関係のない客分の神様が祀ってあるのだそうです。特に印象に残ったのが、若宮社

(八幡宮の祭神の応神天皇の子どもの仁徳天皇を祀る)です。丁度鴨長明の方丈記に『伝へ聞

く、いにしへの賢き御世には、あはれみをもって、国を治め給ふ〜』と前号のまるごと館たよりの賢帝が仁徳天皇のなんです。つながって



28日 久しぶりのオカリナでした。14人の参加で今まで寂しかったまるごと館内が賑やかに。練習はずっと同じことの繰り返しですが、不思議とオカリナをふくことができるようになるんですね。コ

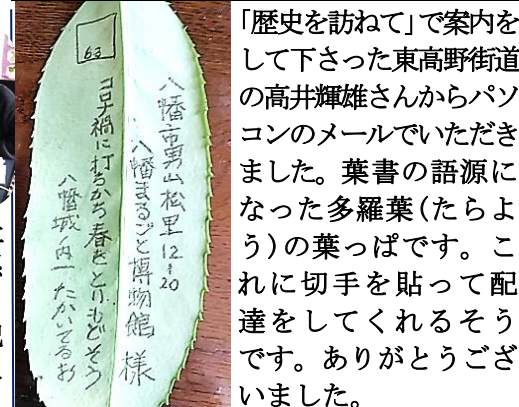
で嬉しかったです。人家のかまどから煙があがらないのを見て、つまり食べ物がないからと租税を3年間免除したという逸話です。

ンサートとなれば張り合いが持てて、普段とは違う気持ちが働き、一挙にうまくなります。不思議と。

八幡まるごと館 4月・5月の予定

休館 4月4日(月) 5月1日(日)~5月5日(木)

<パソコン教室>	
4月11日(月)10時~12時	パソコンを持って来て下さい。費用 300円(コーヒーつき) 毎週月曜日10時~12時です
<オカリナクラブ ひまわり> 楽しめる時こ。	
4月11日(月)13時30分~15時30分	参加費100円 練習日は月曜日だけに
<絵手紙講習会>	
4月13日(水)午後1時30分~	講師 森本玲子さん 参加費 400円(コーヒーつき) 次回は5月11日(水)です
<歴史を学ぶ 新八幡の歴史 N034>	
4月21日(木)3時30分~	講師 出口修さん 参加費 100円 月1回です
<楽しい理科の実験 N043> 持ち物 なし 初めての方もどうぞ	
5月27日(金)13時30分~	講師 木下章司さん 参加費 300円(コーヒーつき)



「歴史を訪ねて」で案内をして下さった東高野街道の高井輝雄さんからパソコンのメールでいただきました。葉書の語源になった多羅葉(たらよう)の葉っぱです。これに切手を貼って配達をしてくれるそうです。ありがとうございました。

況が連日報道されています。真実が報道されないととんでもないことになっていきます。早く戦争が終わることを願ってやみません。日本だってどこまで真実が報道されているのかと感ずることがあります。難しい時代ですね。
* コロナ禍も2年越えてしまいました。いったん出かけるのをやめられた方は直ぐには体が動かないようです。私だって、まるごと市の時に徹夜をして炊き込みご飯を年2回作っていたのですが、今はできるだろうかと思えますもの。(うえたに じゅんこ)

<あんなこと・こんなこと>

*いつまで続くのでしょうか。凄惨な状